

	一般的名称	報告の概要
88	リバビリン	C型慢性肝炎患者を対象として、ペグインターフェロン2b+リバビリン併用療法40例とペグインターフェロン2a単独療法10例の治療前後血清尿酸値を比較したところ、ペグインターフェロン2a単独療法群では尿酸値上昇例が認められなかったのに対し、ペグインターフェロン2b+リバビリン併用療法群では17例に有意な尿酸値の上昇を認め、うち9例は高尿酸血症を呈した。
89	アルテプラゼ(遺伝子組換え)	成人虚血性脳卒中急性期のAHA/ASAガイドラインにおいて、大動脈解離は持続する低血圧を引き起こし、脳卒中の転帰に悪影響を与える可能性があるため、注意が必要である旨が記載された。
90	ホリナートカルシウム	手術可能局所進行胃癌に対してフルオロウラシル+/-ロイコボリン/放射線療法後に胃摘出手術を行なうPhase II 試験において、心筋梗塞およびうっ血性心不全により各1例が死亡した。
91	アセトアミノフェン	出生前のアセトアミノフェンの頻繁な暴露は、アトピーのない小児で重大な喘息のリスクファクターであることが示唆された。
92	エストリオール	ホルモン補充療法(HRT)は、卵巣癌の発症リスクを高めることが示唆された。
93	塩酸リトリン	子宮頸管無力症の妊婦において、塩酸リトリン、エリスロマイシン、ベラパミルの併用療法は末梢血リンパ球の小核出現頻度を高めることが示唆された。
94	クエン酸タモキシフェン	閉経後片側性エストロゲンレセプター陽性または不明の乳癌患者4726例を対象にタモキシフェン治療2～3年後のエキセメスタン切替群2320例とタモキシフェン継続投与群2338例を比較したPhase III トライアル(IES試験)において、グレード3または4の副作用が切替群で426例に、継続投与群で411例に認められた。また、心血管疾患により切替群で14例、継続群で8例が死亡した。
95	ドンペリドン	心停止の既往のある患者にはドンペリドンとハロペリドールを投与した場合、心停止のリスクが高くなることが示唆された。
96	マレイン酸チモロール	チモロールゲル化剤が投与された患者において、重篤な異常所見が2例(脛骨メゾナール骨折、重傷の徐脈)が見られた。
97	アセトアミノフェン	出生前のアセトアミノフェンの頻繁な暴露は、アトピーのない小児で重大な喘息のリスクファクターであることが示唆された。
98	ケトコナゾール	サルにおいて、経口剤ケトコナゾールとミダゾラム、フェキソフェナジンの併用により、ケトコナゾールとミダゾラムのAUC、Cmaxが増加することが示唆された。
99	コンドロイチン含有一般用医薬品	変形性関節症患者の疼痛に対するコンドロイチンの有用性が低いことが示唆された。
100	アセトアミノフェン	アセトアミノフェン誘発重度肝毒性患者460例を対象としたプロスペクティブ試験において、劇症肝不全(FHF)が124例に発症し、うち58例が死亡した。
101	デキサメタゾン	超低出生体重時に対する出生後のデキサメタゾンの使用により、大脳など脳の組織体積が減少することが示唆された。
102	アルテプラゼ(遺伝子組換え)	成人虚血性脳卒中急性期のAHA/ASAガイドラインにおいて、大動脈解離は持続する低血圧を引き起こし、脳卒中の転帰に悪影響を与える可能性があるため、注意が必要である旨が記載された。
103	オメプラゾール	プロトンポンプ阻害剤の長期投与により、心血管イベントの発生率が高まることが示唆された。
104	ホリナートカルシウム	リンパ節転移陽性の結腸癌第3期を完全切除し、フルオロウラシル/ロイコボリン術後補助療化学療法を施行した患者227例を対象としたレトロスペクティブ研究において、白血球減少による敗血症を含む死亡例が4例認められた。